

命の花

＜今月の聖句＞ 安心して行きなさい。(マルコによる福音書5章34節)

新年度がはじまり一ヶ月、新入園の子どもたちも少しずつつくしでの生活を受け入れてくれているように感じます。在園の子どもたちも、クラスでの新たな出会いを楽しんでいる。体も心も昨年より少し大きくなり、遊びも広がり深まっています。そんなつくしの子たちを今日も暖かく包みこむ、5月の日差し。

「でも、昨年の5月とは少し、外の雰囲気がちがうなあ。」そう気づかれた方もおられるのではないのでしょうか。園庭の真ん中を今、藤の花がいきいきと彩っています。砂場の上の棚ではぜんぜん足りない、と言わんばかりに枝葉をぐんぐん越境させ、そこそこに紫のツララを垂らし泥団子作りや駆けっこをする子どもたちのために上から、ほどよい日陰をつくってくれています。

その藤ですが、ここ数年まったく花を咲かせていませんでした。4年前、藤棚のペンキ塗り替えで、枝を刈り込んでしまってからどうもご機嫌をそこねてしまったようなのです。ようやく昨年、つるを伸ばし、新緑の葉もたくさんつけたので「ついに！」と期待しましたがやはり、うんとも、すんとも。初春の紅白の梅、続くうすいピンクの桜、鮮やかなチューリップそして初夏へ橋渡しする、あの上品な紫がとても好きだったので…。残念と言うより、申し訳ない、とずっと思っていました。

けれど、「そのとき」は突然、やってきました。それも一気に。世の中に自粛ムードが蔓延している、ちょうどこの時期それでも希望をすててはいけない、と私たちを励ましているかのよう。藤はフジ、すなわち「不死」を意味すると聞いたことがあります。命の力にあふれ、ムラサキに垂れ下がる花の周りには今日も、子どもたちの笑い声が高らかにこだましています。

(つくし保育園園長 つだかずお)

＜礼拝のご案内＞

毎週日曜日あさ10時30分 だいで教会  
心あたたまる讃美歌、聖書のおはなし。共に主に感謝しましょう  
はじめての方を歓迎します